

第11回全国おやじサミットinみやぎ

報告書



11回全国おやじサミットinみやぎ実行委員会
2014年2月10日

第11回全国おやじサミット inみやぎ 報告書 もくじ

ごあいさつ「全国おやじサミット in みやぎを終えて」 実行委員長 善波昭宏	1
I オープニングイベント	
1. オープニング演奏 寺山オレンジ・ジャグバンド	2
2. 火伏せの虎舞 中新田幼稚園	2
3. 一分間スピーチコンテスト 一分間スピーチコンテスト担当 小幡恭二（寺岡おやじの会）	3
4. サミット参加団体・参加者数	4
II 分科会	
【第1分科会】『東日本大震災における父子家庭の抱える現状と課題』 第1分科会担当 村上吉宣（宮城県父子の会）	5
【第2分科会】『災害対応の問題点と復興の見通し』 第2分科会担当 千葉政徳（稲井オヤジの会）	6
【第3分科会】『おやじとアボジ』 第3分科会担当 石垣政裕（おとうさんたちのネットワーク）	7
【第4分科会】『おやじのジレンマ』 第4分科会担当 坂口清敏（上杉チャンネット）	8
【第6分科会】『幼児向けのエンターテイメント』 第6分科会担当 玉上雅則（稲井オヤジの会）	9
【おやじ縁日】『おもてなしの地元屋台』 屋台分科会担当 伊藤 淳（寺岡おやじの会）	11
『好日縁日』 縁日担当 照井貴広（鹿島台おやじの会）	13
III 関連企画	
ストーム・ウェザー・シャンティ・クワイア	
1. おやじサミットプレ企画1 Storm Weather Shanty Choir 被災地支援特別公演	14
2. おやじサミットプレ企画2 石巻・女川視察ツアー	15
3. 大交流会 大交流会班 担当 佐々木裕一（多賀城中おやじの会）	17
IV サミット開催のための会議および広報について	
事務総括 石垣政裕（お父さんたちのネットワーク）	
1. 作戦会議	18
2. お父さんたちのネットワーク会議	19
3. 他地区のおやじの会への参加	19
4. 新聞記事など	20
5. 広報材料	20
6. 参照URL	21

「全国おやじサミット in みやぎを終えて」

全国おやじサミット in みやぎ
実行委員長 善波 昭宏

平成25年10月、宮城で初めての「全国おやじサミット」が開催されました。色々な困難や障壁がありましたが、終わってみれば大成功の宮城大会でした。開催に当たり、ご協力とご尽力くださった皆様には心より御礼申し上げます。また、遠方よりご参加いただいた皆様と有意義で楽しい時間を共有できたことは、更なるおやじパワーの源になることは言うまでもありません。本当にありがとうございました。

おやじたち自身が、誰よりもおやじの会の活動を誰よりも楽しんでいる姿から、「おやじ本気(マジ)！」というサミットのテーマは生まれました。普段は地域や子どもたちのために活動しているおやじたちですが、サミットでは自分たち自身が「本気(マジ)！」で楽しもうと考えたのです。

趣味を超えた「本気！」領域のおやじバンドはオープニングで披露され、「熱くて大変なんだよねえ」と言いながらも、「本気！」で鉄板から離れようとしないうおやじたちが屋台で作った品々はサミット参加者の胃袋を満たし、そして、しゃべったら止まらないおやじたちの特徴を逆手に取った1分間スピーチは、おやじたちの「本気！」度への挑戦でした。

また、分科会ではおやじたちの知識が十二分に披露され、そして、被災地の現状を知ってもらうためのツアーでは、多くの方々に「何か」を感じていただけたことと思います。

宮城らしさを見てもらおうじゃないか！

それは実行委員の思い、それは宮城のおやじたちの想い。
我々は、それを全力を出し切りました。そして本気！で楽しみました！

さて、充実した「全国おやじサミット in みやぎ」でしたが、我々に足りていない事があることにも気づきかされました。それは、宮城県内外のおやじの会とのネットワークの重要性です。また、PTAについても、更に連携を深める事で、おやじたちの幅が広がり、おやじたちの何かが変わるかも知れません。



「全国おやじサミット in みやぎ」は終わりました。しかし、我々、おやじの会の活動の目的はサミットを成功させる事だけではありません。サミットを開催したことで得られた知識や経験を、地域や子供達との活動に生かす事です。

さあ、宮城、そして全国のおやじな皆様方、これからも一緒に本気！で頑張りましょう！

Ⅰ オープニングイベント

1. オープニング演奏 寺山オレンジ・ジャグバンド



2. 火伏せの虎舞 中新田幼稚園



全国のいりどり



会場の準備

3. 一分間スピーチコンテスト

一分間スピーチコンテスト担当
小幡恭二（寺岡おやじの会）

全国おやじサミットに参加してくる全国のおやじの皆様は、例外なく自慢話が好きで、出たがり屋さんなのは火を見るより明らかでした。そこで多くの参加者が発表できるイベントとして今回の「一分間スピーチコンテスト」は狙い通りの大成功だったと思います。

一分間という限られた時間の中でそれぞれの「本気！」をスピーチしていただく。一分が過ぎると照明は消され、マイクもオフになり、「あまちゃん」のテーマが流れ出す。

実に馬鹿バカしくもおやじらしい企画でした。司会進行係・誘導係・照明係・音響係がそれぞれ素晴らしい働きをしてくれました。

一人目の演者の「一分」が終わるとステージは暗転し「あまちゃん」のテーマが鳴り出したとたんに会場がどっと沸いて、演者は茫然自失、私としてはしてやったり！思わずガッツポーズです。

スタッフとの打ち合わせは前日のリハーサルで行うつもりでしたが、照明の設定が間に合わず本番当日のぶっつけになってしまいましたが、そこはおやじです。熟練の照明家のようなタイミングでの暗転で会場を沸かせてくれました。音響係との連携も見事でした。たぶん初対面であろうおやじたちとは思えないチームワークでした。

誘導係はもう少し人員を配置すべきと反省しています。それでも黒子に徹した動きはお見事でした。ただ一つ残念だったのは、善波実行委員長のあいさつの時に、ピンマイクで手振り身振りで話している実行委員長の前にマイクスタンドが置かれていたことです。最大の功労者は司会進行の阿部清人さんです。企画段階からお世話になりました。音源もつくって頂きました。

演者の皆さんも素晴らしいスピーチでした。実際もっと聞きたいと思わせるスピーチもあ



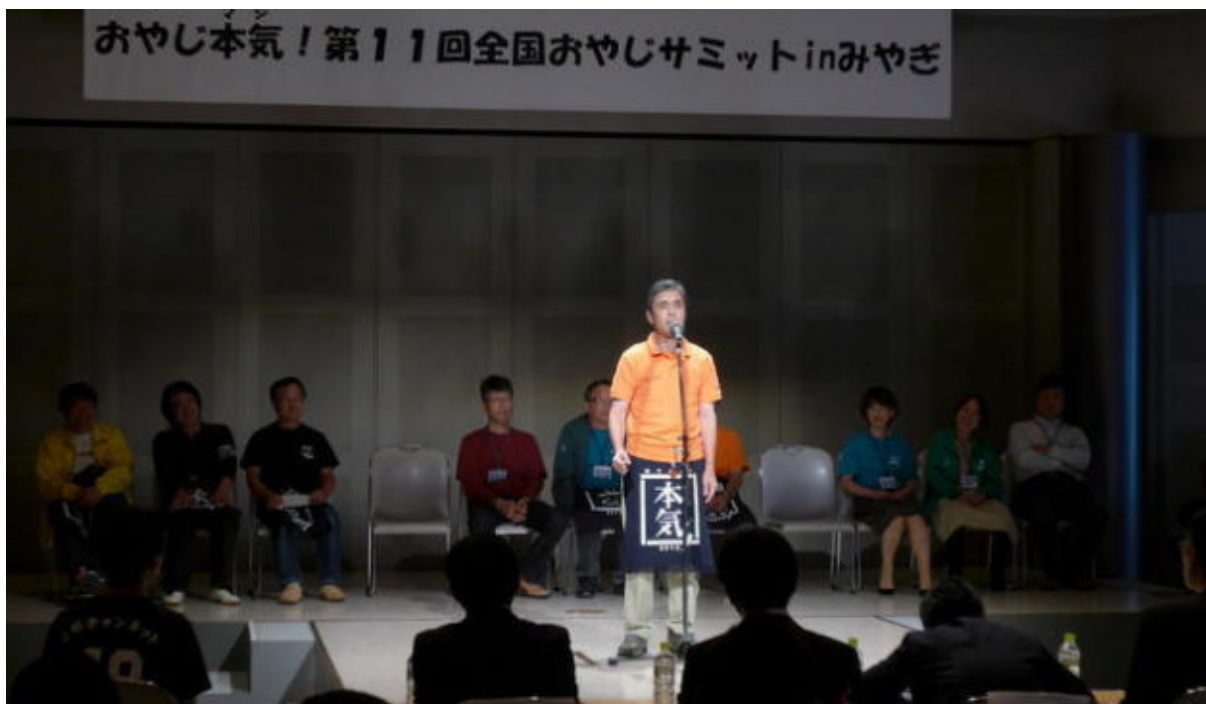
次々と熱弁をふるう参加者



漫オコンビ・・・でなく、スピーチです！

りましたが、無情のあまちゃんの前に撃沈です。

審査に当たってくださった来賓各位のコメントも素晴らしいものでした。



絶品のスピーチとジャンケン**の強さに敬意を表してアップ!**

採点で満点が三名、ジャンケン決勝になりましたが、それもまたおやしらしい幕だったと思います。飛び入り参加まで出て担当としては大満足でございました。

コンテスト結果



賞品は宮城の地酒

優勝者（審査員満点）

小林浩さん（小金井三小おやじの会）
末松千秋さん（寺岡おやじの会）
川上雅広さん（AII白石おやじの会）

4. サミット参加団体・参加者数

49団体 162名

II 分科会

【第1分科会】

『東日本大震災における父子家庭の抱える現状と課題』

第1分科会担当

村上吉宣（宮城県父子の会）

内容：東日本大震災により浮き彫りになった父子家庭の抱える現状と課題を通して、子育てする父親たちのおかれた社会的現実を語り、そして父親の家事・育児・地域コミュニティで役割を果たす意味、重要性を訴える。

動員人数：15名

参加者からの声：

- ・報道にあがらない父子家庭の抱える現実、他人事じゃないと思った
- ・地元の父兄にも聞いてほしいと思った
- ・親父の会の必要性を改めて気づくことが出来た。

振り返り：

父子家庭の抱える現状と課題を通すことで、親父の会の存在意義や、地域コミュニティで役割を果たす意味、そして当たり前のように隣にいてくれるパートナーとの関係を見直していく事を被災地の経験を通して伝えさせて頂きました。

当初より県内や、有識者、子育て支援担当者、行政職員、議員に対しレクチャーしたりしていましたが、私は県外のお父さんたちに聞いてほしいと常々思っていました。

もし、関東地方が、東海地方が、大震災のような震災に見舞われてしまったら、その時あなたは家族を守る事が出来るのか？家族の一員として役割を果たすことが出来るのか？

そして、愛するパートナーを失ったとき、子育てをしながら今の仕事を

続けていく事が出来るのか？具体的に想像し考えて欲しかった。

そうした問いかけによって、父親たちは労働環境の見直しの必要性に気づき、子育てや地域コミュニティで役割を果たす意味を、それぞれが自分なりに見出し、愛する妻をより大事にしようとする行動に起こしていくのではないだろうか。そう願っています。

また、親父の会にて活動を続けるオヤジたちに対しては、自身の楽しみながらの地域での活動が父親たちの、男たちの地域での受け皿になっていること。地域コミュニティにおいて非常に重要な位置にいることを再認識して頂けたらと思いお話しさせて頂きました。



【第2分科会】

『災害対応の問題点と復興の見通し』

第2分科会担当

千葉政徳（稲井オヤジの会）

定刻13時よりエッグホールにて、傍聴者数はおおよそ40名程度で、滑り出しも順調にスタート致しました。司会挨拶からはじまり、日本全国のおやじの会から多数のご支援を頂いたことへのお礼を申し上げ、私も60秒程度時間を頂いてで宮城の地から傍聴される皆様へ御礼申し上げます。

分科会の概要説明を行い、震災の恐ろしさ、現場が置かれた状況や、そこに繰り広げられる人間模様など、実際の体験談などを交えながら講話をおこないました。



前半と後半に分けて分科会スケジュールを述べさせて頂き、前半では当時、東松島市教育長であった木村民男さま、湊第二小学校校長であった遠藤俊子さまのお二人から、震災当時の状況や課題など、自らの体験談を交えご講演いただきました。

また、稲井小学校6年の佐藤陸くんから自宅が被災した状況、その時感じた恐怖、その後の気持ちの変化など、震災後に書き上げた作文を朗読して頂きました。

前半の基調講演は講話のみ行い、それぞれの間に佐藤陸くんの作文の朗読を行いました。遠藤俊子さまの講話時間が15分オーバーするという事もあり、後半にする予定だったパネルディスカッションは区切りの悪さもありましたが各々3名が2～3点述べるに留まり、時間の都合上、質疑応答はせずに15時40分に強制的に終了となりました。

終了後、傍聴者の皆様からもっと時間を多めに取って欲しい、講話者を我が県に呼びたいなどというお話を頂きました。

質疑応答はおこないませんでした。2013年10月31日にフェイスブックを利用し、全国のおやじのみなさまに報告を完了しました。

【第3分科会】

『おやじとアボジ』

第3分科会担当

石垣政裕（おとうさんたちのネットワーク）

似ているようで、違っている。近いようで、遠く感じる隣国韓国のおやじについて、実際に韓国を訪問して交流を行った原澤昭浩さん（札幌おやじネットワーク）と韓国からの留学生のキム・ムンジョンさん（東北大学大学院経済学研究科在学中）からの報告を受け、韓国のアボジ（韓国のお父さん、以下アボジ）についての討論を行いました。

○原澤さんは60校をつなぎ、全サミットを支援する北海道特別支援学校おやじネットワークから『交流校提携に見た日韓障害人就労事情』と題して報告を行いました。札幌市は韓国大田（テジョン）広域市と姉妹都市にあるため、支援校同士の提携がかわされており、その縁で韓国を視察しています。その中で、韓国では日本より障がい者の法定雇用率は日本より高く（7%）高等学校卒業段階の就職率も（2012年で54.1%）高いものの就労先は日本の方が多岐にわたっているなど、また日韓における就労支援の状況などを示しながら、『おやじは、どう就労支援をすべきなのか』という問いから、『おやじの会は就労支援活動も必要ではないだろうか』との問題提起をおこないました。

○キム・ムンジョン（金 紋廷）さんには『韓国のアボジは』と題して、娘さんから見たアボジの実態を以下のように報告していただきました。

韓国のアボジたちは、「まじめ」で「我慢強い」イメージが強い。特に、現在50代のアボジたちは会社からリストラの不安もあり、労働時間も長いため、疲れるはずだが、ほとんどのアボジたちは自分の子どもの前で疲れた顔や弱みをみせない。そんな韓国のアボジに対して、子どもは見るだけでも幸せになれる存在であり、昔とは違って最近では自分の子どもが可愛いくてたまらない姿を思い切り表す「息子バカ」、「娘バカ」アボジたちが増えているとの報告をいただきました。



また、韓国でも『イクメン』による子育ても現れつつあるとの話題をいただきました。

今回、韓国からのおやじの招待を企画していましたが、直前になって来日ができなくなりました。しかし、お二人の報告を受けて、日韓のおやじたちのおかれている家庭や環境環境の違いを認識することができ、今後の交流のための情報共有化が得られました。おやじの会が積極的に海外のおやじたちと交流を行うために、サミットだけでなく、日常的にもおやじたちの連携を深めていくことが望まれるでしょう。

【第4分科会】

『おやじのジレンマ』

第4分科会担当

坂口清敏（上杉チャネット）

おやじサミットの分科会の中で、内容が想像できないという専らの理由で異彩を放っていた分科会「おやじのジレンマ」。提案者としても不安が無かった訳ではありませんが、16名の参加者（スタッフ6名除く）を集め、熱く語り合うことができました。本分科会で扱う「ジレンマ」は、“自分の思い通りにしたい二つの事柄のうち、一方を思い通りにすると他の一方が必然的に不都合な結果になるという苦しい立場”と定義しました。

おやじの会を長くやっていると、「発足当時は勢いがあったけど・・・」、「好きで始めたはず・・・」、「辞めるも自由だったはず・・・」、「後継者がいない・・・」、「メンバーが増えない・・・」、「頼りにされるのは良いのだけど・・・」などの漠としたジレンマに遭遇します。このジレンマは「会」、「個人」そして「周囲（地域、家族など）」のそれぞれに発生し、其々との関わりに於いても発生します。

そこで本分科会では、まず、「なぜジレンマは発生するのか」、「どこにジレンマは発生するのか」から考えてみました。その結果、“本気！”で次の一歩について考えるほどにジレンマは発生し、この一歩を踏み出そうとすればするほどに真のジレンマに陥るのではないか。すなわち、ジレンマは、ネガティブ思考ではなくポジティブ思考の帰結ではないかとの結論に至りました。

ジレンマとは、上述した例の字面から受ける負のイメージとは対を成す思考を源泉とするものであり、それは、克服するものではなく、共存し、共栄できる（すべき）ものであること、大切なのはプロセスであり結果では無いことを確認でき

たと思います。皆さんから頂いた体験談、ご意見等は、全てポジティブ思考に裏打ちされており、そこから芽生えたジレンマと上手に付き合っておられることが感じ取れました。

“本報告で参加者の皆様の総意は代弁できているのか・・・”とのジレンマには陥っておりますが、本分科会を通して“少なくとも一歩”進むことができたのではと思っています。



【第6分科会】 『幼児向けのエンターテイメント』

第6分科会担当
玉上雅則（稲井オヤジの会）

第6分科会では、午前中は第一部として旭ヶ丘小学校体育館にて、一般参加者及びおやじ関係者の子どもたち、オープニングイベント参加の子どもたちへ風船でのおもてなしを実施いたしました。

60～70cmに膨らませた色とりどりの巨大バルーンは体育館の天井まで跳ね上がり、子どもたちはそれを追いかけて、体育館を駆け回っております。その脇ではアートバルーンで「剣」や「魔法のつえ」「クマさん」などを作成してプレゼント。「ありがとう！」と手渡したバルーンを受け取る、輝いた瞳。おやじの心に沁みました！



かわいい虎舞を披露して頂いた中新田幼稚園関係者の皆様にはたくさんの感謝の言葉を頂戴しました。いま振り返ってみると感謝しなくてはいけないのは自分だったと強く感じます。イベント参加の子どもたちには巨大バルーンもお持ち帰り頂きましたが、帰りのバスが風船でいっぱいになってしまったのではないかと心配です。大丈夫だったでしょうか？

続いて午後2時より、おやじ参加者と一般参加者（子ども、ベテランおやじ・おふくろ含む）十数名にて、講習形式での第2部を開始。①幼児とおやじの会との関わり、②バルーンの魅力発見、③バルーンの活用法いろいろ、④アートバルーンの作成講習会、を実施しました。



この日のために準備していた、特製冊子「おやじばる～ん」をもとに講習を開始。幼児とおやじの会との関わりでは、おやじの会として「幼児」へのアプローチを考えながら、中新田幼稚園おとうさんの会 高橋さんに幼稚園でのおやじの会の活動状況をご説明いただきました。

子どもの参加者も多かったので、長い講釈は省略して実演できる解説を前倒し、寺岡おやじの会 パンチョ西岡さんによる「クラウンのグリーティング実演」を実施。参加者だけでなく運営スタッフも時おり感嘆と笑いが入り混じりながら興味深く魅入るほどでし

た。

活用法いろいろでは、技術が必要なアートバルーンだけでなく、風船素材そのものでの「遊び」をテーマにして、「まっすぐなアートバルーンの飛ばしっこ」「バルーンが手元に戻ってくる投げ方」などを全員で真剣に楽しく行いました。お孫さんと一緒にいられていた一般参加のベテランおふくろは「こんな風船があるなんて、はじめて知ったわ～。生きてて良かったあ」と喜んでおられていました。その言葉でちょっと感動してしまった私です。そして、これにより幼児だけでなく風船は年齢の壁を超えることがここに実証されました。



最後によくアートバルーン講習会に突入しましたが、事前申し込み参加者のおやじ、おふくろがアートバルーン経験者ということを確認。事前講習中にすでにブードルを作っている様子を横目で見ると、額に嫌な汗が流れるのを感じました…

基本的なひねり方、剣のつくり方を実演しながら説明。参加者からは「なかなか難しい」「割れてしまう」という声が聞こえてきました。技術の習得まではなかなか難しいようでしたが、全体を通してバルーンの魅力は皆様に伝えられたと感じています。子どもたちを笑顔にできるバルーンが、おやじの会の活動と共に広がっていくことを願います。



【おやし縁日】 『おもてなしの地元屋台』

屋台分科会担当
伊藤 淳（寺岡おやしの会）

1. 開催日時および場所

日時：平成25年10月13日（日）9：00～16：00

場所：仙台市立旭丘小学校

2. 全国おやしサミットにおける屋台の 目的と役割

全国から宮城にお越し頂くお客さまに対して、宮城県の名物・名産と関連したメニューの昼食を提供するとともに、地域の夏祭り等で日頃得意としている屋台運営を実際にお見せすることによりおやしたちの本気をアピールします。



屋台会場となった旭丘小学校

3. 販売品目と食数

さんまカレー	：約100食
牛タン丼	：約100食
石巻風やきそば	：約80食
笹かまぼこ	：約100食
飲料	：約50本

4. 屋台運営に至った経緯

全国おやしサミットは午前から午後にかけての開催のため、参加者は途中で昼食をとる必要がありました。

しかし、会場の地下鉄旭ヶ丘駅周辺は住宅地のため飲食店が少なく、来場者数を考慮すると会場周辺の飲食店だけではキャパシティが不足することが考えられました。当初は弁当等の仕出しも考えましたが、参加者数が直前まで想定できないことや参加者が昼食に弁当の購入を希望するか等が課題としてあげられました。このため、実行委員会では、日頃地域の夏祭り等でおやしたちが得意としている屋台を出店することとし、さらには、提供するメニューを宮城県の特色を活かしたものとすることしました。



絶品の牛タン丼

5. 宮城の食を意識したメニューの考案

日頃地域の夏祭り等の屋台では焼きそばや焼きとりといったメニューが一般的です。しかし、今回は全国から宮城にお越し頂くお客さまに対して宮城の食を意識したメニューを提供することで地域色を強調し、このサミットのキーワードである「おやし本気」をアピールすることにしました。

さんまカレーは、県内産のさんまを前日より煮込み、魚の臭みを消すために各種スパイスを調合し、何度も試作を重ねた上でさんまとカレーの風味をベストマッチさせ

ました。

牛タン丼は、今や仙台で一番の名物となっている牛タンのように分厚く味のある牛タンを丼として提供しました。一番の課題はコストでしたが、カット済みの牛タンを格安で仕入れるルートを探し出したのも、異業種があつまるとおやじの会ならではの取り組みでした。

石巻風焼きそば、実際の石巻にある製麺所から仕入れ、本来の石巻焼きそばを忠実に再現しました。

笹かまは購入したお客さまが自分で炭火を使って炙れるコーナーを設置し焼きたてのような笹かまを食べてもらうよう工夫しました。



じゅじゅじゅっ！石巻風焼きそば

6. 食材および機材等の調達

お客さまへより安価に提供できるよう、食材および機材の調達を工夫しました。特に機材は地元町内会の協力を得て、バーベキューコンロ等は無償で借用することができた。これらは日頃の地域諸団体との協力関係が大きいといえるでしょう。

7. 当日の屋台運営状況

当日の屋台販売開始時刻は、サミットのプログラム進行を考慮して、11時半とし、屋台の仕込みは9時より開始しました。各おやじの会毎に分担しながら仕込みはスムーズに準備することができました。



地元の食材満載

また、屋台は旭丘小学校校舎の軒下を借用したため、汚すことのないようブルーシート等で養生しましたが、これら作業もおやじたちが自発的かつ協力的に作業を進めているのが印象的でした。

販売開始後は、サミットの昼休憩時間12:00～13:00にお客さまが集中します。これは事前に仕込みを十分行ったことで大きな混乱なく販売することができました。

販売終了後は、スタッフ全員で協力しながら撤収・清掃を行い、予定より1時間程度早い午後3時頃には撤収を完了することができました。

8. お客さまの反応

屋台にお越し頂いたお客さまは、見た目と匂いでまず牛タンを注目の方が多く、次にさんまカレーに興味をもたれていたようでした。さんまカレー、牛タン丼、石巻

風やきそば共に主食であったため、お客さまはどれを選択するか迷っていたと思う。多くの方は3つのメニューから2個程度を選択し購入していました。県外から来た方には宮城の食をアピールすることができ、当初の目標を達成できたと思っています。

9. まとめ（成果と反省）

（1）成果

- ・スタッフ含めた来場者すべての方に対し、昼食を提供できました。
- ・宮城の特色を活かした食を県外からのお客さまにアピールできました。
- ・準備～販売～撤収まで各おやじの会が協力して作業を進めることができました。

（2）反省

- ・主食のメニューが3品となったため、主食と副食といったメニューを考慮すべきでした。
- ・来場者数の予測が困難であったため各メニュー若干数の売れ残りが発生しました。
- ・独立採算制での運営でしたが、収支は赤字決算であり、おやじの会の負担となりました。

『好日縁日』

縁日によく似合う「くじ引き」のことを、仙台では『とすけ』と呼びます。小さい頃おやじたちは10円玉を握りしめて近所の駄菓子屋さんに『もおーし！』と入っていきます。「ごめん下さい」や「すみません」では雰囲気が出ません。『もおーし！』と大声を張り上げましょう。

宮城県のおやじの会でこの『とすけ』の申し子といえば、昔テキ屋こと、わたくし、鹿島台おやじの会の照井です。生まれも育ちも宮城県の米所、鹿島台。鳴瀬の川原で産湯に浸かり、お父さんたちのネットワークの活動では、『中華料理の達人』で、ボランティア活動にやってくる人たちに感動を与えています。また、『とすけ』を仕入れては、他のおやじの会の祭りにも出沒して子どもたちの人気を独り占めにします。この日もたくさん『とすけ』を用意しました。火ぶせの虎舞を踊ってくれた中新田幼稚園の子どもたちに感謝して、早めに開始しました。

売れ残りはありませんでしたが、どこかでまたしっかり回収します。

縁日担当 照井貴広(鹿島台おやじの会)



子どもたちに大人気の『とすけ』

一口メモ 【仙台における駄菓子屋での会話例】

子ども もおーし！

おばちゃん あやあ、早（は）えごだ。あんだ学校（がっこ）おわったのがわ
こども ん。甘納豆（あまなっと）けさいん。

おばちゃん なんぼもってちたの？はい、んでおづりね。んだら、こっから
袋（ふぐる）とらいんわ。

III 関連企画

1. おやしサミットプレ企画1

Storm Weather Shanty Choir

(ストーム・ウェザー・シャンティ・クワイア) 被災地支援特別公演

第11回おやしサミットに合わせて、来日するノルウェーの「海の男たち」のバンドの公演を仙台と気仙沼で行いました。当楽団は2011年11月にお父さんたちのネットワークが石巻の渡波中学校・稲井中学校でコンサートを行った縁で、今回もツアーの最後に宮城県に来ていただきました。

開催の意義について、私たちは以前の公演の時に以下のように語りました。

「お父さんたちのネットワークでは、このコンサートを通して、子どもたちやその保護者の方々に、場所は違っても一つにつながった海で暮らす人びとに、”舟歌”を楽しんでいただき、子どもたちにも海に生きてきた親たちへの尊敬と、郷土に暮らすことへの誇りを持って海を見つめて欲しい、そしてすばらしさを感じ取っていただけたらと思っています。(2011年コンサート当日パンフより)」



SWSC のコンサートー仙台公演

今回はより多くの市民の方々にこの思いを共有していただくために、仙台と気仙沼の2箇所の公演を行いました。

○仙台公演 2013年10月7日(月) 18:30 イズミティ21 小ホール

復興支援コンサート「全国ツアー最終日をこの被災地で！」

ストーム・ウェザー・シャンティ・クワイア スペシャルライブ

当日スタッフ	舞台監督	石垣政裕 (おとうさんたちのネットワーク) 橋沼友貴 (NPO法人劇団仙台小劇場)
	照明	小松慶子 (同 上) 山下とも (同 上)
	音響	小幡恭二 (寺岡おやじの会・わいわい企画) 岡部栄二 (わいわい企画) 川角 充 (わいわい企画) 三輪卓也 (有限会社NMG)
	受付	佐々木裕一 (多賀城中おやじの会) 佐々木明日香 佐々木 響

週初めの月曜日とあって、観客を動員することには苦勞をしましたが、各おやじの会の奮闘があって100名近い観客に、なんとかいい歌を届けることができました。

会場の雰囲気は盛り上がり、SWSCのメンバーはツアーの最後でこんないいステージができたと喜んでおりました。終了後、CDが飛びように売れました。サインが良かったですね。

演奏中、稲井オヤジの会の千葉政徳さんが出演し、被災地の声を届けてくれました。



自作の記念品を渡す千葉さん

○気仙沼公演 2013年11月8日（火） 14:00 気仙沼市立階上中学校体育館

2日目は気仙沼市の階上中学校に移動しました。その遠さにメンバーもびっくりしていました。

しかし、実際にコンサートが始まりますと、舞台にかじりつくほどの前に出て、演奏と一体化した子どもたちの姿がありました。最後の全校生徒による伝統のエールではメンバーが目を開いたままになるほど感動して、来日最後にして最高のいい思い出を土産に帰ることができました。

仙台に帰ってからの打ち上げでは、他のお客さんもいる居酒屋で、観客を魅了する声量で「船を下りるときに決まって歌う歌」というのを歌ってくださり、これも感動の夜となりました。

階上中学校では地域の方々も駆けつけていただきました。今野勝美校長先生をはじめ学校側のなにからなにまでの暖かい配慮に感謝いたします。



階上中学校の生徒とハイタッチ

2. おやしサミットプレ企画2 石巻・女川視察ツアー

コース 仙台駅前→（語り部：大西さん）→石巻市内→（語り部：千葉さん）→女川→仙台駅前

参加者 県外11名、県内8名、スタッフ4名（稲井オヤジの会）語り部2名

語り部 大西康夫（GRAEGE湊）
千葉孔三（かどのわきハウス）

ツアー当日、仙台駅前のペデストリアン上で、上杉チャネットの坂口さんが、蛍光色のT-shirtに前掛け、のぼり旗で人目を引きました。特に前掛けは人気で、観光客に「どこで売ってるの？お土産に欲しい。」と何人もの人から「マジ」で声を掛けられました。「時間があればどうぞ参加して下さい！」と笑顔ではお答えしたものの、この日の仙台は、「東北よさこい祭り」「女性教員・・・」「交流研・・・」ほんとうにたくさんの催し物や結婚式がありました。

やや遅れて仙台駅を出発したバスは東北自動車道から三陸道へ抜けました。語り部になっていただいた大西さんは震災以来石巻に住み続けボランティアを続けています。ここでしか聞くことのできないような震災後の被災地の方々とこのじつに生々しい話をしてくださいました。

石巻の南浜からは千葉さんが乗り込み案内をしてくださいました。千葉さんはボランティア宿泊施設紹介など国内外を問わずたくさんのボランティアの方々のお世話をしてくださっています。

バスは日和山公園から女川へ向かいました。

女川では、震災当時から倒れたままのビルに津波の威力を思い、また港の復旧の様子などを視察することができました。



目立つ格好で出迎えっ！



語り部の大西康夫さん



石巻から乗り込んでくださった
千葉孔三さん

IV サミット開催のための会議および広報について

事務総括 石垣政裕

本サミットの準備のため以下の会議を開催し、また県外の会議に参加し、サミットをアピールしました。

1. 作戦会議

サミット開催に向けての準備会議を「作戦会議」と称し、第1回から第10回まで『放談』→『大会のアウトライン決定』→『分担』→『プログラム詳細』の順を追うように会議を行い当日のプログラムなどを決定していきました。会議の結果はその都度メーリングリストで配布し、HP (<http://kreis.sakura.ne.jp/tochannel/hp/>) 上で公開しました。



作戦会議の様子

- | | | |
|---------------|----------|-----------------------|
| ■2013. 01. 26 | 第1回作戦会議 | (仙台市中央市民センターセミナー室) |
| ■2013. 03. 13 | 第2回作戦会議 | (青年文化センター 会議室1) |
| ■2013. 04. 06 | 第3回作戦会議 | (エルパーク セミナー室) |
| ■2013. 06. 29 | 第5回作戦会議 | (青葉区中央市民センター 第4会議室) |
| ■2013. 05. 11 | 第4回作戦会議 | (青葉区中央市民センター 第4会議室) |
| ■2013. 06. 29 | 第6回作戦会議 | (青葉区中央市民センター 第4会議室) |
| ■2013. 07. 29 | 分科会 | (太白区中央市民センター 大会議室) |
| ■2013. 08. 10 | 分科会 | (青葉区中央市民センター 第4会議室) |
| ■2013. 09. 07 | 第7回作戦会議 | (太白中央市民センター 第2小会議室) |
| ■2013. 09. 16 | 第8回作戦会議 | (太白中央市民センター 中会議室) |
| ■2013. 09. 22 | 第9回作戦会議 | (仙台市中央市民センター 第2セミナー室) |
| ■2013. 09. 29 | 第10回作戦会議 | (仙台市中央市民センター 第1創作室) |
| ■2013. 12. 07 | 反省会 | (大崎市鹿島台学童農園) |

2. お父さんたちのネットワーク会議

本会議は、父親の活動を活発にするため、お父さんたちのネットワークと宮城県教育庁生涯学習課との共催で開催されました。おやじの会以外の方々の参加も多くあり、サミット開催の普及活動の役割を果たしました。

東北での初めての開催なので、東北のおやじの会およびグループに参加を促すためもあり、意識的に東北各県から講師を招いたものの、他県からのサミット参加に対する効果はほとんどありませんでした。しかし、これによって東北のおやじの会の交流の啓発になったのではないかと考えることもでき、今後、東北のおやじたちとの交流のあり方を検討する必要があると強く認識しました。



秋田県の親父の動向を報告

- 2012. 06. 09 第1回お父さんたちのネットワーク会議(大崎市市民活動サポートセンター)
講師：鈴木義則(岩手県奥州市 水沢南小おやじの会)
- 2012. 12. 02 第2回お父さんたちのネットワーク会議(丸森町)
講師：おとうさんたちのネットワーク
- 2012. 12. 02 第3回お父さんたちのネットワーク会議(仙台市戦災復興会館)
講師：下重俊一・村越勝孝(福島県郡山市 富田小学校おやじの会)
加藤寿一(秋田県PTA連合会会長)
- 2013. 06. 16 第1回お父さんたちのネットワーク会議(中新田公民館)
講師：青森県階上町立階上中学校おやじの会
- 2013. 12. 07 第2回お父さんたちのネットワーク会議(多賀城市民会館)
講師：鈴木 満(ドリームフィールドコーチ・研修講師)

3. 他地区のおやじの会への参加

以下の他地区のサミットや交流会への参加を行い、サミットの紹介と参加を促すための広報活動を行いました。

- 2012. 11. 03 第10回おやじサミットinさっぽろ(札幌エルプラザ)
4名参加：石垣、坂口、照井、千葉
- 2013. 08. 03 「おやじの会」四校交流会(盛岡市立北稜中学校)
青森八戸市立湊中、青森県三戸郡階上町立階上中、
青森県三戸郡三戸町立三戸中、盛岡市立北稜中学校
3名参加：多賀城 佐々木、照井、善波
- 2013. 09. 08 「第14回福岡市おやじサミットin 特別支援学校」
(福岡市立屋形原特別支援学校) 2名参加：照井、千葉
- 2013. 05. 19 「第3回札幌おやじサミットin東橋小」
(札幌市立東橋小学校・かわさきファーム) 1名参加：チョン・テミョン

4. 新聞記事など

- 2013. 07. 15 日本教育新聞 「仲間との交流で活性化」
- 2013. 10. 10 三陸新報 「舟歌で生徒を勇気づけ」
- 2013. 07. 15 三陸かほく新報 「船乗り歌でエール」
- 2013. 10. 14 河北新報 「地域の未来をおやじが討論ー仙台で全国サミット」
- 2013. 10. 14 朝日新聞 「父親の孤立化防ぐ地域の輪ー「おやじの会」全国サミット、仙台で初」
- 2014. 02. 06 ダ・ビンチ 3月号194頁 「ダビンチなんでもランキング」 照井貴広

- 2014. 03 (予定) 学校とまちがつながる情報誌 まなのわまなのわ第8号
「全国の熱いおやじたちが集い地域や子育てについて語り合う」

5. 広報材料



活動開始時のステッカー
T シャツのデザインにも使用



サミット案内チラシ



SWSC コンサートチラシ



当日パンフレット



オリジナル前掛け

6. 参照URL

記事あるいは写真の詳細は以下のサイトに追加の情報が 있습니다。

- おとうさんたちのネットワーク <http://kreis.sakura.ne.jp/tochannel/hp/>
- 寺岡おやじの会ブログ <http://teraoka082.exblog.jp/>

第11回全国おやじサミット in みやぎ 報告集

発行者 第11回全国おやじサミット in みやぎ 実行委員会

発行日 2014年2月10日

編集 お父さんたちのネットワーク 編集責任 石垣政裕

問い合わせ お父さんたちのネットワーク bzt04200@nifty.ne.jp